11月５日～８日に韓国・ソウルで　15ヵ国・地域から250人が参加

第３回アジア武術選手権大会

中央アジアのカザフスタンも初参加　日本は銀９、銅２の健闘

「第３回アジア武術選手権大会」は，アジア武術連盟（ＷＦＡ）主催，韓国武術協会主管で11月５日～８日にソウル市のオリンピック第１体育館で挙行された。

大会にはＷＦＡ加盟の15カ国・地域（中国台北，香港，インド，日本，韓国，マカオ，マレーシア，モンゴル，ネパール，中国，フィリピン，シンガポール，タイ，ベトナム，カザフスタン）の代表選手，役員250人が参加して熱戦が展開された。

中韓国交樹立後初の国際大会

今大会は中韓国交樹立後に初めて中国の正式代表団が参加する国際大会であったため，韓国国内の各方面から関心を集め，大会の模様は連日長時間にわたってＴＶ中継された。また，旧ソ連領から独立した中央アジア各国のうちカザフスタンがＷＦＡに正式加盟し，12人の代表選手団を派遣して大会に参加したことも注目された。

日本、中国の最強メンバーに肉薄

競技は，国際競技種目の太極拳，南拳，長拳，刀術，剣術，棍術，槍術の規定套路と３種目総合の８種目，男女計16種目が正式競技種目として実施された。他に，公開種目（デモンストレーション）として自選套路部門と散打競技（８階級）が行われたが，日本代表選手団は，正式種目に絞ってエントリーした。中国は，９月に行われた全中国選手権大会の優勝選手が各種目にエントリーし，文字通り最強メンバーで臨んできた。

日本は，男子の増田勝（太極拳）はじめ，二宮秀夫，窪田潤（長拳，総合），女子の増田尚子（太極拳），勝部典子（南拳），神庭裕里（長拳，総合）の各選手がそれぞれ中国のチャンピオン選手に肉薄する得点を挙げたが，いずれも２位となり，金メダルには届かなかった。

全体として，日本の銀メダル９個，銅メダル２個は参加15カ国・地域の中で中国に次ぐ総合成績であったが，今後の国際大会（第１回東アジア競技大会，第２回世界選手権）に向けて，金を狙う重点対策が課題として残された。

韓国、銅２の健闘

主管国の韓国は，この大会にむけて強化訓練を重ねたことが成果を挙げて，男子太極拳と男子長拳で第３位を獲得する健闘を示した。韓国は国の強化対策に支えられてレベルアップが目ざましく，今後，日本のライバルとなることが予想される。

大会の審判・運営体制に貢献

日本は隣国・韓国が技術・組織の両面で向上するよう，過去数年にわたって全日本大会に韓国審判員を招請するなどして協力してきた。この大会では，日本から５人の審判団（仲裁委員＝友正慧，副総審判長＝川崎雅雄，審判員＝高山守夫，加藤修三，清水美恵）を派遣して，中国審判団とともに審判業務の中心的役割を果し，大会の成功に貢献した。

また，ＷＦＡの本部国として，村岡久平専務理事が1988年以来訪韓を重ねて開催の準備作業をすすめてきた。さらに，ＷＦＡ事務局として石原泰彦理事が事前に現地入りして大会の運営実務にたずさわった。

大会を主管した韓国武術協会の努力と日本の協力が実を結び，大会が円満に成功したことはアジアの武術界にとって喜ばしいことであった。